

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和2年8月12日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4690100526
法人名	有限会社 友星メディカル
事業所名	グループホームうすき
所在地	鹿児島市宇宿2丁目13番17号 (電話) 099-255-2835
自己評価作成日	令和2年7月10日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和2年8月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームは周辺に大型商業施設が多く立ち並び賑やかですが、ひとつ中に入った川沿いにあり、静かで落ち着いた環境にあります。利用者のできること、したいこと、楽しみなことを日々の生活に取り入れ、本人らしく過ごせるように、また、ご家族からの意向を伺いながらケア内容を作成しています。できるだけホームに閉じこもることがないように、川沿いの散歩を日課に毎月の行事や近隣の地域資源を活用した外出、敷地内にある畑の野菜の収穫などを行っています。健康面では訪問看護が入り、いつでも相談・指導を受けられ早めの対応ができることで健やかな生活を送れる体制にあります。利用者・ご家族と笑顔で安らぎある生活が送れるよう、職員研修・会議にも力を入れ、日々ケアに取り組む努力をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、産業道路から一筋海側に入った川沿いの閑静な地区に平成22年に開設されており、周囲には高層マンションや大型商業施設、食品工場、自動車関連の会社等が立ち並び、少し離れて宇宿小・中学校、宇宿交番等がある。ホームの広い敷地には樹木や草花が植えられ、菜園には常に季節の野菜が数種栽培されており、遠くに桜島も眺められて、利用者は四季を感じながら平穩に過せる環境となっている。

開設以来、地域との交流に努めており、個人住宅が少なく大型商業施設や各種の工場等が多いという環境から日常的な交流は難しいが、小・中学校のリサイクル活動やバザー、地区の福祉フェア、夏祭り等への参加やボランティア、施設見学等を積極的に受け入れ、近隣の食品会社や薬局職員の運営推進会議への出席、防災訓練に周辺の住民や企業に参加を要請するなど工夫して取り組んでいる。現在、管理者は自治会の班長を担っており、日常的に地域との関わりを持っている。家族や友人知人の来訪や散歩、買い物時に地域の人と挨拶を交わす等の交流は、利用者の楽しみとなっている。

管理者及び職員は、独自の理念をホーム内に掲示し、朝礼での唱和や研修の実施、意見交換等で共有に努め、利用者の尊厳や想いを大切にしながら、笑顔のみられる平穩な暮らしの支援に取り組んでいる。利用者や家族の思いや要望等を丁寧に把握し、申し送りや職員会議等で協議して利用者主体のケアに努めており、家族との信頼関係が築かれている。

管理者は、日頃から職員とのコミュニケーションに努め、気軽に意見を言い合える関係を構築しており、職員間の信頼感もあり、協調性も高い。職員の意見や個人的事情等に十分配慮しながら、サービスの向上や働きやすい職場環境の整備に取り組んでおり、日頃の業務に対する助言・指導やスキルアップを図る研修の実施等に努めている。資格取得や外部研修の受講に対しては、法人による経費の助成や給与体系が構築されて、職員の就労意欲向上に繋がっており定着率が高い。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	職員で共有できるよう、各階の受付などに掲示しケアに取り入れている。	利用者が家族や地域と触れ合いながら、笑顔の絶えない平穏な生活を送れる支援を理念に掲げ、玄関に掲示しパンフレット等にも掲載している。朝礼時の唱和や職員会議での研修の実施、意見交換を行って意義を共有し、年度目標も設定して理念に沿ったケアの実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会班長をしている。回覧板は職員が周知できるようにしている。宇宿小学校バザーや小中学校のリサイクル活動に協力している。	自治会に加入して地域の情報を把握し、地域の福祉フェアや夏祭り、小・中学校のリサイクル活動、小学校のバザー等に参加している。管理者は、町内会の班長を担っており、イベント時だけでなく日頃から地域と密に関わっている。感染症等に配慮しながら可能な限り家族や友人の面会やボランティアによる慰問、施設見学等を受け入れ、散歩時に地域の人と挨拶を交わす等の交流は、利用者の楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	宇宿地区の福祉フェアに参加しアピールできた。ボランティア活動や介護相談員派遣の受入れを積極的に行い、認知症の方の理解や支援方法を体感してもらっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月毎に開催し利用状況、事故・行事の報告、認知症についてなど勉強会を行い、民生委員、長寿あんしん相談センター、家族、関係者から意見を得ている。	会議は定期的（2か月に1回）に開催し、家族や民生委員、調剤薬局、地域の食品会社、長寿あんしん相談センター等が参加している。ホームの現況や行事、ヒヤリハット事例等を報告し、委員からはケアの内容や感染症予防等に関する質問、意見が熱心に出されており、認知症ケアや身体拘束等の勉強会も行っている。家族が参加しやすいように日曜日や行事に併せて開催するなど工夫し、会議録は気軽に閲覧してもらえるように、常時玄関に置いている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護受給者のサービス利用に関する報告を行っている。担当者の面談や書類に関する手続きなど協力し、ケアプランの変更・更新時は郵送している。	市の担当者には、電話や窓口に出向いて、介護保険の更新やホームの運営、各制度の相談等を行い、助言・指導をもらう等、日頃から協力関係を築いている。利用者の半数以上が生活保護受給者であるため、担当ケースワーカーとは日常的に連絡を取り合っている。行政主催の会合や研修等にも積極的に参加して情報の交換を行い、介護相談員も受け入れてサービスの向上を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月身体拘束ゼロ委員会を行い、入居者の状況に応じた対応を検討している。身体拘束に当たった場合は家族から同意書をいただき、経過表を作成し早期拘束解除できるよう取り組む体制を整えている。	身体拘束や虐待防止に関しては運営規定や重要事項に明記し、入所時に利用者や家族にも十分説明して理解を得ている。委員会も毎月開催して、尊厳を大切にされたケアの研修や具体的事例による意見交換等を行って認識を共有している。日中は施錠しないで寄り添いや見守りに努め、外出したがる利用者には一緒に散歩して安定を図るなどの工夫を行いながら、安全で自由な暮らしの支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月身体拘束ゼロ委員会で虐待がないか意見を出し合っている。外部研修参加、内部研修を行い、全職員が周知できるよう取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修に参加し内部研修として報告している。成年後見人の方々と個々の相談ができる体制にある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関することは全て書面・同意書にて説明し理解を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱、各居室にメモ帳を設置し対応している。利用者・家族の意見、要望は記録に残し職員が共有、反映できるようにしている。	利用者の想いは、日頃のケアの中での対話や表情、仕草等から理解に努め、家族からの意見、要望は、面会や電話、運営推進会議、意見箱、各居室にメモ帳を設置する等、工夫して把握している。出された意見は職員会議等で協議し、介護計画にも反映させて、運営やサービスの改善に繋げている。新型コロナウイルス感染症の影響で、やむを得ず面会を自粛中も、家族には電話等で利用者の状況を伝え、意見を貰うよう取組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議や各委員会で発言できる場を設けている。また、管理者はいつでも対応できる体制を取っている。	管理者は日頃からコミュニケーションに努めて、全員が気軽に相談や意見を言い合える関係を構築している。申し送りや職員会議、各委員会で意見要望等を把握し、全員で協議して改善を図っている。日頃の業務への助言、指導や資格取得へのバックアップ、スキルアップを図る研修の実施に努め、業務担当の決定や勤務シフトには個人的事情にも十分配慮する等、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の能力や適性に合った研修参加や資格取得を推進している。担当や係は職員の意思を優先し決定している。また公休希望は全て受け入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>全職員に内・外部研修の機会を積極的に与え、資格取得にも助成金を設け支援している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>Sカフェ（福利厚生）や管理者会議などに参加し、同法人や他事業者との情報共有や意見交換を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と面談を行い、ホームの概要を説明し、ホームでどのように生活したいか不安や要望を聞き、出来る限り受入れられる体制作りを努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申込の時点から、ホーム内見学・概要を説明し、家族の不安・要望の聴き取りを行っている。安心して入居できるよう連絡を密に取り、安全な生活が出来るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の要望と医療面、経済面で対応可能かを見極め、必要性がある場合は支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ることを活かし、それぞれ日課を決めて助け合いながら生活を送っている。不安そうな利用者がいたら他者が声掛けや職員に教えてくれることもある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会や電話があったときは、聞かれなくても職員より積極的に普段の様子や出来事を伝えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の意向がない限り、面会や外出の制限はなく、大切な人との関りが途絶えないように支援している。	入所時の調査や日頃の利用者との会話、家族からの情報等で馴染みに関する情報を共有し、心身の状態や感染症の流行状況等も考慮しながら、意向に沿って散歩や買い物、外食、墓参、ドライブ、地域行事等に家族の協力も得ながら出かけている。家族、友人等の来訪時にはゆっくり面談出来るように配慮し、遠方の家族とは電話や年賀状、手紙を取り次ぎ、園便り「うすきの風」で利用者の近況を伝える等、関係の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や生活スタイルに合わせた交流の仕方を取っている。トラブルなどがあった時は声掛けや気分転換を図っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も本人や家族の気持ちに寄り添い、必要に応じ相談や支援を行っている。亡くなった方はお通夜に出席している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人のしたいこと、食べたい物、行きたい所など様々な分野から意向を聞き出しケア内容に取り入れている。困難な場合は日頃の状況や家族の意向から検討している。	日頃の会話や表情、サイン等で思いを把握し、その人らしい平穏な暮らしの支援に取り組んでいる。個別の買い物等の外出や趣味（読書、計算ドリル、音楽鑑賞他）や家事（食材の下処理やテーブル拭き、ゴミ袋の作成他）の取り組みも心身の状況に配慮しながら支援し、達成感が得られるように、その都度、感謝や評価を言葉で伝えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からこれまでの暮らしについて聞き取りを行い、分からないところは入院・入居先から情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録に日々の状態、ケアチェック表に健康状態を記録し状態変化の把握に努めている。ケアプラン変更時はアセスメントを作成し前回との違いの把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月毎のモニタリングは偏った評価にならないよう担当者が作成している。担当者会議を開催し本人・家族・職員から意見などを伺いケアプランを作成している。	本人・家族の意向を把握し、主治医や訪問看護師の指示や日頃のケアの状況、モニタリング（3か月毎）での意見等を基に、生きがいにも着目した利用者主体の介護計画を作成している。支援の状況は「介護支援経過」や「業務日誌」「健康チェック表」等で共有し、利用者の変化に応じて計画の見直しと修正を行って改善に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>本人の言動や普段の行動など細かく記録している。また、家族とのやり取りなども記録に残し、その後の対応に活かしている。ケア内容の変更などは連絡ノートを活用している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人や家族の意向などは、職員間で相談し実現できるように個別ケアを取り入れ、臨機応変に対応している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>訪問マッサージ・ヘアカット・歯科往診・訪問看護など他のサービス事業者と連携を取って、心身共に安心・安全に生活できるように対応している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>以前から受診している病院や家族の希望である病院を利用している。職員同行のもと、定期的な受診を行っている。</p>	<p>本人及び家族が希望する医療機関をかかりつけ医としており、通院は家族と連携しながら主にホーム職員が同行している。週一回の訪問看護も実施され、ケアの助言や健康管理、感染症予防等を徹底し、訪問歯科も活用している。協力医療機関との連携体制も構築されて適切な医療が受けられており、利用者、家族は安心した日々を過ごしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	週1回の訪問看護の際、利用者の状況や受診結果を報告しケアについて指示をもらっている。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	入院時には情報提供書を作成し日頃の様子や気をつけて欲しいことなど記載している。出来るだけ面会し状態把握に努め早期退院の受け入れをしている。退院時はカンファレンスに参加し退院後の注意点など情報を得て生活環境を整えている。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	入居時に重度化と終末期について説明し家族から同意書にサインを頂いている。日頃から利用者の状態を報告し重度化した際には再度説明を行っている。医療関係者と連携し家族の不安が軽減できるよう支援している。看取りについての内部研修を行っている。	重度化や終末期の対応指針を昨年明文化し、利用者や家族にも丁寧に説明して理解を得ている。重度化した時点で主治医や家族と十分な話し合いを行い、可能な限り希望されるケアの体制を構築して取り組んでいる。看取りケアのスキルアップや不安感の軽減を図るため、職員研修も計画的に実施している。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	急変時対応マニュアルを目の届く場所に掲示している。安全対策委員会でヒヤリハットや事故報告書の評価を行い、事故再発防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年3回以上の火災・地震の日中・夜間を想定した避難訓練を行い、近隣住民に参加の呼びかけを行っている。各居室に防災頭巾を設置、2階倉庫に非常食を準備し3か月毎に点検している。</p>	<p>夜間を含む火災や地震発生を想定した訓練を年3回（内1回消防署立ち合い）、近隣の住民や企業に参加を要請して実施し、併せて消火器や通報装置の取り扱い等の研修も行っている。利用者の居室には手作りの防災頭巾を設置し、日頃から避難経路の確認や災害報道等も話題にして防災への意識を高め、不審者対応として宇宿交番の見回りを受けている。スプリンクラーや火災通報装置、簡易担架が設置され、懐中電灯、ラジオ、卓上コンロ等の備品や食料品や飲料水も備蓄している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重しプライドを傷つけない言葉を選び、虐待に当たらないよう声掛け、介助を行っている。	プライバシーの保護や個人情報の取扱いについては研修の実施で理解を深め、尊厳や誇りを傷つけるような言動が無いように利用者の状況に応じたケアに努めている。日頃から自己決定できるような働きかけと意思を尊重したケアに努めており、衣服交換や入浴、排泄時の支援は羞恥心にも細かに配慮している。ホームはプライバシー保護に配慮された構造で、台帳類も適切に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の表情や行動から気持ちを汲み取り、本人が答えやすい言葉選びや雰囲気作りを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活スタイルや性格に合わせ、居室でテレビ視聴や休む人、ホールで過ごす人など様々な形で本人らしく過ごせる暮らしを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	季節に合わせた衣替えを行い、入浴準備ができる人はしてもらっている。毎月訪問カットを行いカットの仕方など要望を聞いている。日曜日は爪切りを介助している		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや下膳できる人は行い、お盆・テーブル拭き、食器洗いなど利用者と一緒に、終わったらコーヒータムをしている。お餅や果物缶詰など個々の希望を提供している。	日頃の会話から希望食を把握し、菜園の野菜等も活用しながら、栄養バランスや形態、代替食、季節感、盛り付けなどに配慮して食事が楽しみとなるよう努めている。おせちや敬老会等の行事食や、誕生日の手作りのケーキ、レストランでの外食、家族との会食、おやつ等工夫しており、利用者も食材の下処理やお盆拭き等を楽しみながら行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	旬の物や食材の種類、バランスを考え献立を作り、1日の食事・水分量を把握している。食事形態は刻み・ミキサー、飲料水はポカリ・麦茶・ジュースなど本人に合った物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る人は声掛けし、磨き残しがある人は介助して毎食後口腔ケアを行っている。義歯の人は定期的に洗浄している。必要に応じ訪問歯科を利用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレ介助を行い日中は布パンツ、夜間はトレパンなど一人ひとりの排泄パターンにより工夫している。オムツの使用量が減らせるよう、職員間で報告、検討している。	利用者毎の排泄パターンを把握し、見守りや声かけに努めて可能な限りトイレでの排泄を支援している。利用者の状況に応じたケアの方法や介護用品を介護計画に反映させて取り組んでおり、オムツからリハビリパンツや布パンツになる等の改善が見られている。乳製品やオリゴ糖、水分の摂取、各利用者の運動量に配慮して便秘の予防に努め、主治医の指示も得ながら改善を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便が2日ない時は10時のヨーグルトにオリゴ糖を入れて提供している。排便の状態により下剤の調整を行っている。水分量は1日1000ml以上摂れるよう、様々な飲料水を準備している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週3回の入浴を行い、個別にゆっくりと入れるようにしている。入浴拒否や外出・受診などがある場合は時間を空けたり翌日にするなど、臨機応変に対応している。	基本週3回の入浴を、利用者の心身の状態に配慮してシャワー浴や清拭も取り入れながら支援している。排泄の失敗等で汚染した場合は直ちに清拭等で清潔を保ち、時間や温度、好みのシャンプー、同性介助等は利用者の意向に沿って柔軟に対応して入浴を楽しんで貰っている。入浴をためらう場合には、日時、職員の変更や声かけ等を工夫して、利用者自身が意欲を待つように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	終日居室で過ごす人やホールで過ごす人、午後からベッド臥床するなどそれぞれの生活スタイルに合わせた暮らしを支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬がないよう二重チェックと朝晩は夜勤者、昼はレク係が服薬投与している。服薬後の袋は毎食後ケースに1か月保管しチェックできるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合った日課を設け無理のない範囲で行っている。また、したいこと、楽しみごとをケア内容に取り入れ支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	川沿いやホーム周辺の散歩は日常的に行い、年間行事計画をもとに集団レクとして動物園など外出している。今年は新型コロナウイルスにより外出は控えているが、散歩・外気浴など行えている。	利用者の心身の状態や天候に配慮しながら、日常的に園庭及び周辺の散歩や日光浴、買い物、通院等に出かけている。墓参や一時帰宅、外食等を家族の協力を得ながら取り組み、また、季節の花見や弁当持参の動物園へのドライブ、地域のイベントなど、全員での外出も利用者の楽しみとなっているが、最近は新型コロナウイルスの感染対策をして、施設内でのレクリエーションを工夫している。利用者の中には、ボランティアの同伴で有名歌手のリサイタルを楽しむなど、希望に沿って個別の支援にも務めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族からお小遣いとして預かり、本人の希望があれば家族と相談の上、所持している。必要な物品購入は付き添いや代行にて購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人希望時や不安などある場合は電話をしている。会話の聞き取りが困難な場合は職員が間に入り支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度・湿度計をホール、浴場に設置し快適な環境を保てるようにしている。季節感を感じられるように毎月壁紙を作成し、イベントごとの写真を張り替えている。	玄関やリビング等の共有空間は明るく余裕あるスペースが確保されており、空調、防音、防火、快適さに十分配慮されている。リビングには、テーブルセットやソファ等が利便性や動線等を考慮して配置され、清掃や衛生管理が徹底されている。季節に応じた図柄の貼り紙や利用者の作品、イベント時の写真、活花等が随所に飾られて、和やかで落ち着いた雰囲気となっており、利用者は好みの場所で四季を感じながら平穩に過ごしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>自席以外に共有のソファを3か所設置しており、それぞれが好きな時間に過ごしている。本棚やDVDプレーヤーがあり、読書や音楽鑑賞など気分転換が図れるようにしている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた家具や思い出の品、家族の写真を飾ったりと馴染みの物を使用している。安心して過ごせるよう環境作りを行っている。</p>	<p>フローリングに腰高窓の居室は明るく余裕があり、ベッドやエアコン、防災頭巾が備えられ、居室の入口には自室を戸惑うことの無いよう写真や花の飾りを付けるなど工夫している。利用者の意向に沿って清掃等を支援し、利用者は使い慣れた寝具やテレビ、家具、家族写真、仏壇等を持ち込み、また、表彰状や自身の作品等も飾って、その人らしい寛げる居室となっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>廊下には手すり、階段には反射板テープを貼り安全に備えている。居室が分からない利用者のドアには好きな花や写真を目印にしている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない